

標 題 : Olive oil, other dietary fats, and the risk of breast cancer (Italy)
オリーブ油、他の食事脂肪、および乳癌のリスク (イタリア)

著 者 : C. L. Vecchia, et al. (イタリア ミラノ大学 医療統計研究所生体認証)

掲 載 誌 : Cancer Causes and Control 6: 545-550 (1995)

要 旨 : イタリアで実施された乳癌に関する多センター症例-対照研究からのデータを用いて、オリーブ油および他の食事脂肪と乳癌リスクとの関連を解析した。症例は、乳癌を発症し組織学的に確認されて入院した女性 2,564 人であった。対照は、急性の非腫瘍性、非ホルモン関連、非消化管の疾患で同系列の病院に入院した女性 2,588 人であった。症例および対照を、1991 から 1994 年の間に認証済の食品頻度アンケートを用いて面接した。人口統計および生殖に関する乳癌の危険因子、エネルギー摂取および食事脂肪の種類を調整した多重ロジスティック回帰で、データをモデル化した。

オリーブ油について摂取量の最低区分(5段階)と比較して、摂取量順の各段階のオッズ比は 1.05、0.99、0.93 および 0.87 であり、線形ロジットと仮定したモデルでの単位(30g)当たりの OR は 0.89(95%信頼区間[CI]=0.81-0.99,P=0.03) であった。

検討した他の油脂中で、特定の種子油群(サフラワー、ひまわり、コーン、ピーナツ、大豆)の最高値摂取者を非使用者と比較した OR は 0.72(CI=0.6-0.9)であった。

摂取値の最高の最低に対する OR は、混合また非特定の種子油 0.80、バター0.95、マーガリン 0.96 であった。

イタリアのさまざまな地域からの大規模なデータセットに基づく研究で、乳癌リスクとオリーブ油および他の植物油の摂取との逆関連が示されるが、バターとマーガリンとは関連が示されない。

キーワード : 乳 癌、食事脂肪、女 性、イタリア、オリーブ油
